



(財)住宅リフォーム・紛争処理支援センター理事長賞

講評： この作品は、東京通勤圏にあるマンション住戸で、二人の子供のための勉強スペースを造ることから始まっている。4人家族で55㎡という相対的狭さの中で、いかにして落ち着いた勉強スペースを作り、同時に明るい居間や食事のためのスペースを作るかが設計者の課題であった。当初は、当然細かく部屋割りを試してみることからスタートしたのだが、中央に子供達の机と収納家具で作った「島」を置き、そこをぐるりと回れるようにした合理的なこの案に行き着いたのである。

これだけなら普通のリフォームにすぎないが、本作品の優れた点は、その先の工夫と仕上がった空間の素晴らしさにある。各部の設えと寸法は、これ以上はできないと思われる所まで緻密に調整し、かつコストダウンを考えている。

例えば、子供達の机や照明器具などは既製品であるが、回りの造作部分と一体となって造り付けたような感じで、机の前に座ると勉強に集中できる雰囲気がある。コーナーにしか置けない夫婦のベッドも、照明やニッチの細かな工夫によって「静かに休める空間」に仕立てられている。出入り口のドアの角度と大きさもミリ単位の調整の賜物である。

特に素晴らしいのは、食事室の腰高出窓部分に作り付けた収納である。一見さり気ない収納棚であるが、広がりのある眺望の目前に置かれた可動カウンターの上で、炊飯器や電子レンジが何の違和感もなく使える。目隠し用のブラインドやその納め方も簡にして要を得ている。

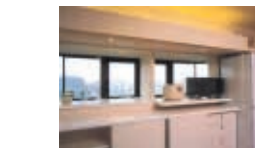
このようなリフォームでは、設計者は全体に狭さの解消や広く感じさせるためだけの建築的なアイデアに腐心しやすいのだが、この作

品の設計者は、絶対に必要な設えと、住まいに必要な自然な落ち着きを両立させている。しかもコストを抑える工夫になっているし、将来子供達が大きくなった時の改変方法まで提案している。同じようなリフォーム内容でも、一昔前に比べると数段設計力が上がってきていることを具体的な空間を通して感じられるのである。

子供のためのリフォームは、マンション、戸建て住宅を問わず、近年ではやや飽和気味であった。本作品では、同じマンション内に夫人の両親が住み、何かと便利ではあるが住替えもしにくいと言う特殊な条件であったのだが、考えてみればこういうケースは案外多い。新しい展開期にさしかかったマンションリフォームを感じさせてくれたこの作品は、(財)住宅リフォーム・紛争処理支援センター理事長賞にふさわしいものと判断した。さらなる切磋琢磨を期待したい。



リフォーム前後の写真



リフォームの動機/設計・施工の工夫点/施主の感想 など

《リフォームの動機》

下のお様の就学を前にお子様2人の勉強スペースを作りたい。部屋数はあるが、閉鎖的で、仲の良い4人家族には生活しにくかった。

家族の気配がどこにいても感じられるオープンな家になりたい。

《設計・施工の工夫点》

55㎡ 3LDKの間仕切る発想をなくして大きなワンルームを作り、その中心に設けたコの字型の可動収納棚で空間を区分。個室は4つのコーナーとなった。玄関(③)を入り、ロッカーコーナー(④・⑤)、

集いコーナー(⑥・⑦)、学ぶコーナー(⑧・⑨)、寝るコーナー(⑩・⑪)、最初の玄関へとぐるぐる続く動線に従いながら、各々の目的を達成できる。また、「MOTTAINAI!」思考を生かし、デッドスペースだった出窓部分には、手前に引き出せるようスライド甲板を設置し、家電置き場を整理して採光を取り戻した。(②→⑥)

玄関は既存のトール収納の吊り戸棚部分はずし、フロアキャビネットを持ち上げ、間接照明を配して空間を取り戻した。(①→③)

将来は、施主自身で可動収納棚を移動させ、その時期にふさわしい間取りに変更できる、参加型リフォームとして解決した。

特に配慮した住宅性能: 全床にL45の置床式防音性能を施した。可動収納の重量に耐えるため、現在及び将来プランを数パターン想定した所に、床下地を予め補強してある。

データ		構造/築後年数	
所在地	埼玉県さいたま市	鉄骨鉄筋コンクリート	造/ 14 年
該当工事面積	48 ㎡/総工事床面積 55 ㎡	該当部分工事費	720 万円/総工事費 720 万円
居住者構成	15歳以上65歳未満: 2 人/65歳以上: 2 人/15歳未満: 2 人/ペット:		
設計者	大京管理(株)	担当者	大平 日呂見
施工者	同上	担当者	

リフォーム前 | リフォーム後

